

スクラムスクール運営協議会 拡大企画会 記録

平成 29 年 11 月 16 日

御前崎市役所 301 会議室

- 1 吉村教育長職務執行者 あいさつ
- 2 会長あいさつ
- 3 学校教育課長 報告
※別紙企画会レジュメ参照
- 4 両会長からの提案
※別紙企画会レジュメ参照
- 5 協議 (グループで話し合い)

(浜中 小川)

- ・(朝食の実態資料より) なぜ、現状朝食を食べていないのか調べて欲しい。大人が把握していない、子ども達の食べない理由を把握し、例えば食べてこない子は早く登校し、市で予算をとって学校で食べさせるとかしたらどうか。
- ・各校の運営委員会で話をしても、我々の発言だけではささっていかない。行政に入ってもらって、今の現状を話して欲しい。
3月までに調査をすれば、今後どうすればよいか考えることができるのではないか。

(御小・白小・地小 大澤)

- ・(クロス集計の資料から) 規則正しく生活し、きちんと朝ご飯を食べている子は成績も良い、ということはわかった。わかったが「なんで？」と思う。なぜできていて、なぜできないのかがわからないと、足並みをそろえて取り組むことが難しいのではないか。

(一小・北小・東小 北小会長)

- ・市PTAの会合に他にも参加しているが、その都度、グランドデザインをもらう。同じ理念で行動しているけれど、みんな違うことをしているように思う。「スクラム」ということを掲げているのだから、スクラム御前崎で進めたい。今はみんながばらばらになってしまっているように思う。子ども達のため、というなら、官民一体でいかないと、後に続かないように感じる。
『社会教育』－『公民館(公民館長)』－『地域』
御前崎市をどうしようか、という根幹は、みんなで考えていくべきなのではないか。行政の方でまとめていってほしい。
日曜日に別の会議に参加した。青少年育成の人だと思うが、「なんで一緒にやらないのかな」と言っている人もいた。
朝比奈のカレンダーは、社会教育委員の人が作成に参加している。つながりを密にしていくべきではないかと思う。

(御幼)

- ・地元PTAの会合で、この会のことをがんばって伝えている。「これにしよう、これをやろう」と一回一回決まっていくわけではないので、伝達が難しい。
議事録があると、伝えるにも温度差が埋められるのではないかと思う。
- ・スクラムカレンダーを作っているけれど、十分に響いていない。1人でがんばっている感が否めない。

(浜中・原田会長)

- ・評判はどうですか？

(御幼)

- ・あまり使っていないかもしれない。浸透度は、5人に1人くらいかな。
まれに小中幼の兄弟がいる人たちは、行事の把握が楽だけど、一人っ子の家はあまり。

(御こども)

- ・この会に参加できなかった日に、代理を立てたい。そのために議事録があった方がつなげやすい。
- ・あいさつ運動、SSP、今後はPTAが主体なのか？それとも園が呼びかけていくのか？はっきりさせて、PTA総会で説明し、呼びかけをしていきたい。

(原田会長)

- ・今は主は？

(御こども)

- ・本年度は11～3月までPTA役員の中で出てくれる人を決めた。先の予定もわからないし、人数もどうしても少なくなってしまう。園からも呼びかけて欲しい。

(沖副会長)

- ・PTA役員さんでやるのは、園は大変ではないでしょうか？
親があの場所であいさつ運動をすることは、大変ではないかと思う。並んであいさつすることばかりではなく、家庭であいさつをすれば○にしよう、とか。
お父さんお母さんができる範囲で行い、地域の人に入ってもらうのはどうか。

(御こども)

- ・形としてはあいさつ運動の形もあった方がよいと思うし、残したい。
保護者だけでなく、サポート隊に立ってもらいたいと考えている。

(浜岡保 会長)

- ・浜岡保育園は園主体でやっている。
全家庭に、あいさつ運動へ出られる日を聞き、その中で参加日を決めて管理している。
空いている日とか、働いている人も参加できるようになっている。
園の方へ提案してみるのはいかがでしょうか？

(さくらこ 会長)

- ・協議会の情報発信力が弱い。改善されていない。
- ・市からスマホなどの情報をもらうが、どの情報もショッキングで濃い。
ただ、ここで話をしているだけではもったいないと思う。
- ・朝食＝成績に繋がることはわかった。もっと直接的な言葉で見出しをつけて、根拠のデータと共に
「だからこそ、市でこういう取り組みをしているので、市全体で規則正しく生活リズムを整えませんか、各家庭で取り組みませんか」と投げかけてもよいのではないか。
それで一年間取り組み、定点観測で追いかけていったらどうだろうか。何か一つ、全体として「これをやっていきましょう」ということがあってもよいのではないかと考える。

(北こども)

- ・幼稚園の子ども(をもつ保護者)にとって、インターネットなどまだ繋がりやすい。
まわりを見ると、コミュニティーでつながり、情報共有ができています。
しかし、いろいろな問題に対し、小さい頃から真摯に受け止め、今後どうしたらよいか役員さんたちと話し合い、取り組んでいきたい。
- ・行政のある程度のところで集めて、御前崎市として分け隔て無く情報をもらえるような場を設定して欲しい。

(課長)

- ・様々な意見をいただき、何とかしていくのがこの会。ひとつひとつできることを、やっていきたい。行政が連携していないのは、かわらずで申しわけない。次には何か提供できるようにしたい。
- ・この会で許可してもらえらるなら、こういう実態が御前崎市にあることを公表していきたい。この場に出てきたことを、できることから発信し行っていきたい。

(原田会長)

- ・昨年の課題の中で「目的がはっきりしない」「協議会が広がらない」という課題が出た。これを乗り越さないようにしたい。会長だけが、でなく、教育委員会に来て欲しい、など各校で話し合っていて欲しい。朝食アンケートはどうするか？

(課長)

- ・6年生だけでなくアンケートで聞きたい。何で食べないか、と聞かれると書くかどうか…中学1年生なら書くかどうか。

(原田会長)

- ・選択制にしたらどうだろう。
 - ①食べたくない
 - ②親が作ってくれない
 - ③時間が無いなど。親にもアンケートできるか？

(石原会長)

- ・ここで何をするか話し合っているだけでなく、決めていかないと。
何で飯を食べないのか、まで聞いて、そこから行政を動かして食べる場をつくるとか。
市を動かすこと、行政に動いて実行させることで、次の人がやる気になるのでは。
実行させる場として、この会があるのではないかと思う。
- ・なぜ行政は横で繋がらないのか？
イベントごとはこの運営委員会と社会教育課に言う、とかできないだろうか。

(原田会長)

- ・次年度の課題として、成績に繋がるなど重要なら、議員や市長まで繋がるように進めていくなど、課題をつくらないと、話し合いだけで終わってしまう。

(課長)

- ・朝食の摂取の有無が、成績につながることを周知するように、次回1月に提案したい。

6 講評

(中村先生)

- ・本音が出て、活発な話し合いになっていた。
- ・PDCA サイクルの今回は特にCが強かった。次のPに繋げる大切なこと。
拡大企画会では、普段本音で感じていることが共有できた。ひとつひとつできることをやっていくこと、行政を見直していくこと、中長期的に取り組むステップとして運営協議会が進んでいくとよいと感じる。
- ・例えば『あいさつ』 → 「あいさつをしなさい」 → 続かない。外発的動機付け
↓
「あいさつしたいな」 → ポジティブに向かう内発的動機付けが大切。
環境づくり
『ゲーム』 → 「ゲームは禁止」 → 何のため？わからなければ続かない。
→ ゲームをしない時間にもっと大事なことがあるから、ゲームは禁止。

PTA 縦のつながり 横のつながり を考える貴重な機会となった。

(教育委員 竹田)

- ・初回から参加しているが、グループの話し合いにすぐに言葉がでる。積み重ねの成果を感じる。
- ・浜岡東小のあいさつ運動に参加した。はじめは下を向いていた子ども達も、今はハイタッチをしながらあいさつする様子が見られた。
- ・会長の思いを受けて、次の会長に繋げることで、すごい中学校になりそう。期待する。
- ・この会は本音を言える会として、ポジティブに繋げてほしい。

(教育委員 紅林)

- ・みなさんが頼もしい。
- ・浜岡地区はPTAが熱心。子どももよくなっている。
- ・核家族化・行政がバラバラなど課題はあるが、地域全体で子ども達を見守る必要がある。親としてこの会で子どもをどう育てたいか、どうありたいかを考えたい。
子どもに自分で幸せになれるように、という目的のために考えたい。